

ホステリングマガジン vol.41 / 2025 Summer

JAPAN
Youth Hostels, Inc.

H^{OSTELLING} Magazine



COVER INTERVIEW
石田ひかり
モノより、コトより

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





さあ、おいしさと
でかけよう!



ランチパック



第78回カンヌ国際映画祭
コンペティション部門正式出品作品



“哀しい”を知り、
少女は大人になる

RENOIR

ルノワール

鈴木唯

石田ひかり 中島歩 河合優実 坂東龍汰 / リリー・フランキー
Hana Hope 高梨琴乃 西原亜希 谷川昭一朗 宮下今日子 中村懸恵

プロデューサー: 大野真子 / Jason Gray / 小西啓介 / Christophe Bruchet / Françoise
製作: ハピネット・フィルム・スタジオ / コーポレート・フィルムズ / 潤平信雄 / KINOFACION / 山崎マコト
脚本: Li Productions / Akagi Film / Atsushi Nishida / Gerdmar / Daleyang / Stella / ARTE France / Cinema Kawa / Media Production
企画・制作: コーポレート・フィルムズ / 制作協力: フォンタナ / キラシマ / 2025 / 製作総指揮: 山崎マコト / 山崎マコト
配給: 豊文化庁文化芸術振興基金(国庫支出金助成映画) / 豊文化庁文化芸術振興基金(国庫支出金助成映画) / 豊文化庁文化芸術振興基金(国庫支出金助成映画) / 豊文化庁文化芸術振興基金(国庫支出金助成映画)
happinet-phantom.com/renoir / X@renoir_jp

『PLAN 75』早川千絵監督作品
不完全な大人たちの孤独や痛みに触れる、11歳のひと夏。

6.20 FRI



日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。



02	Cover Interview 石田ひかり モノより、コトに
08	Youth Hostel Pick up 脇野沢ユースホステル 自然を歩き、野生動物と向き合う 「青い森」に親しむユースホステル
12	Hostelling Magazine × 地球の歩き方 夏至祭と、サウナと。 夏のヘルシンキを旅する
16	鉄道写真家 櫻井 寛「列車で行こう!」
18	松島むうの晴れときどき旅びより
20	YH-GUIDE ユースホステルガイド 北海道 / 青森県 / 岩手県 / 宮城県 秋田県 / 山形県

※本誌の情報は2025年6月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL.(03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

モノより、コトに

Hostelling Magazine Cover Interview

Hikari Ishida



PROFILE

俳優

石田ひかり (いしだ・ひかり)

1972年生まれ、東京都出身。1986年、俳優デビュー。1991年大林宣彦監督作、映画『ふたり』で初主演を務め、数々の映画賞の新人賞を受賞。連続テレビ小説『ひらり』(92)でヒロインを演じ、『飛龍伝'94-いつの日か白き翼にのって-』(94)にて初舞台。近年の主な映画出演作に、『ブルーピリオド』(24/萩原健太郎監督)、『九十歳。何かめでたい』(24/前田哲監督)、『アンジーのBARで会いましょう』(25/松本勲監督)、『リライト』(25年6月13日公開/松居大悟監督)などがある。

ヘア&メイク: 山谷友里恵 / スタイリスト: 藤井享子
フォト: 小林潤次(七彩工房)

言葉にできない思いが詰まった 11歳の目に映る世界

—“75歳になると生死の選択権が与えられる近未来の日本”を描いて世界中の映画ファンに衝撃を与えた映画『PLAN 75』。この作品で長編監督デビューを果たした早川千絵監督の最新作『ルノワール』が6月20日に公開されます。ひかりさんは鈴木唯さん演じる主人公・沖田フキのお母さん、沖田詩子としてご出演されています。完成した作品をご覧になった感想を教えてください！

もう、鈴木唯ちゃんのお芝居に圧倒されましたね！撮影現場の唯ちゃんは普通の自由な子どもで、大人たちは翻弄されまくっていたんですけど(笑)、完成した作品の中には私の知らない、すごく頑張っている唯ちゃんがたくさんいて。もう「参りました！」という感じでした。

共演したリリー・フランキーさんも「こんなに生々しい映画は初めてだ」とおっしゃっていたんですけど、子どもの頃にちょっとお友達に意地悪してしまったり「きっと、よくないことなんだろうなあ…」と気づきながらも、大人の世界に足を踏み入れてしまったり。みんな似たような経験を持っているけれど、あまり思い出したくない、誰にも知られたくない、そんな記憶が映画を観ていると呼び起こされるんです。監督と撮影現場でお話したときに“言葉にできない思い”を映画にしているので、見どころとか、何を伝えたいか？と聞かれるのが一番困りますよね」と言われたことがとても印象に残っています。たしかにこの作品の見どころを言葉で説明するのは難しいなあ…とっていて「全部が見どころです！」としか言いようがない、そんな作品になっていると思います。

—足先に拝見したのですが、自分が「11歳の夏」をもう一度体験しているような感覚になりつつ、同時に、大人になった今の自分がその様子をどこか冷静に見つめているようでもあって…。子どもの好奇心と、大人としての理解が行き来する、不思議な映画体験でした！

今回この『ルノワール』はカンヌ国際映画祭のコンペティション部門に出品されて、作品を観た海外の方からも共感の声が届いているそうなんです。日本の方だけでなく、文化の違う方々にも共感していただけたことは、当たり前なことなんですけど「みんな、同じような子どもだったんだな」と実感ができて、とても感動しましたし、世界中の人々に共感される子どもの頃の気持ちをこんなに鮮明に覚えていて、作品として表現した早川監督は本当にすごいなと思いました。

—“言葉にできない思い”であっても国や文化を超えられるなんて、映画の力ってすごいですね！早川監督はひかりさんから見てどんな方でしたか？

私は『PLAN 75』を公開初日の初回に映画館で観て、大きな衝撃を受けた一人だったんです。お年寄りの生きづらさとか、世界がよくない方向に向かっていく様子がとてもリアルで、怖くて…。フィクションだけど「私たちが暮らす現実の世界も、この『PLAN 75』のような世界になりかけているんじゃないか…」と、深く考えさせられる作品だったので、いろいろな所で「絶対この映画観てみて」と周りの人に薦めていたほどです。なので今回、この『ルノワール』のお話をいただいたときは「まずはこの興奮を直接、監督にお伝えできるだけで私は十分だな！」とっていて。

—公開初日の初回に映画館で！そのことを早川監督はご存知だったんでしょうか？

いえ、ご存知ではなかったみたいですね。直接お伝えしたときはすごく喜んでくださいました！実際にお会いするまで、早川監督がどんな方なのか情報があまりなくて、『PLAN 75』の印象もあってか、私の中で「主張の強い方なのかな？」と、想像していたりもしたんですけど(笑)、実際にお会いすると、植物のような美しさを持った、穏やかで静かで、とっても素敵な方でした。

—これまで映画やドラマで拝見する「ひかりさんが演じるお母さん」は「優しくて天真爛漫なお母さん」というイメージが強かったと思います。でも、今作で演じられた沖田詩子はまったく印象の違う母親でした。役作りにあたってモデルにされた方はいらっしゃったのでしょうか？

詩子はずっと不機嫌なんですよ。私は役を考えていく上で、誰かをモデルにしたり、自分自身の体験を意識するということはしませんね。でも、体は一つなので、22年間の母親としての経験が今回の役に影響していることは間違いないと思います。仕事に追われて余裕がなくて、負のループから抜け出せない…という、あの「何もかもがちょっとずつうまくいかないことへの苛立ち」が表現できたらいいな、と心の中に留めて撮影に臨みました。今回、共演者も大ファンのリリーさんや、河合優実ちゃん、坂東龍汰くん、中島歩さんと、本当に夢のような座組の中で重要な役をやらせていただいたので、とにかく「監督の目指す方向にとにかく近づかなければ」という思いでした。撮影が始まる前に、監督や唯ちゃんや、リリーさんと直接お会いしてコミュニケーションを取る時間をいただけたことも、とてもありがたかったですね。

—今回、国際共同製作映画ということで「撮影現場がすごく多国籍で楽しかった！」と伺いました。多国籍な撮影現場は、いったいどんな雰囲気だったのでしょうか？

もう「エモい！」の一言ですね(笑)。いろいろな国からスタッフが集まっていたので、ほとんどのスタッフのコミュニケーションが英語なんですよ。シーンナンバーとかカットナンバーをシ



Hikari Ishida

ンガポールから来た男の子がババーッと英語で読み上げて、カチンコが鳴って撮影に入っていくんですけど、毎回心の中で「あ、なんかちょっと格好いいかも…」とあって(笑)。情けないことに私は英語がまったく話せないで、Take1、Take2ぐらいしか聞き取れなかったんですけど、あの撮影は私にとっては本当にエモかったですね！

—日本を舞台にした映画の製作陣が国際色豊かになるとするのは、日本人俳優の方にとってポジティブな変化だと感じますか？

はい、もちろんポジティブな変化だと思います！最近では日本のコンテンツが海外で製作されるケースも出てきましたけど、まだまだ数少ない例ですよ。日本は島国ということもあってか、日本の俳優が、英語が飛び交うような撮影現場で演技をするチャンスはとても限られていると感じます。でも、今回のように、さまざまな国の人が携わる日本映画が増えていけば、きっと刺激になりますし、海外の人に作品を観ていただく機会や、そこから海外に出て行くチャンスも増えていくと思うですよ。私もそんなチャンスをつかんで、またエモい現場を踏みたいです！

モノより、コトで 人生を豊かなものになりたい

—『ルノワール』で描かれた物語のように、子どもが成長す

るときに少しヒヤッとするような経験をするこってあると思うんです。親は、そうした場面でどのように子どもを見守るべきだと思いますか？

そうですね、子どもを愛してあげることは絶対に必要だけど、過保護は子どもを不幸にしてしまうかな。もう亡くなってしまった義理の姉に「子育ては、細心の注意を払って大胆に」という言葉を教えてもらったんです。素晴らしい言葉だなと思って、いつも心がけて子育てをしているつもりだったんですけど、私も二人の娘たちが小さい頃には「危ない！」とか「ダメ！」と頭ごなしにガミガミ言ってしまったことがあったなあ…。振り返ると、もっと彼女たちならでの選択とか、興味を尊重してあげればよかったなと思います。今は二人とも大学生になって、だいぶ遅くなりましたから、先日「一人で飛行機に乗って海外に行きたいんだけど」と言われたときも「そう、行ってくれば！いろいろ気をつけてね」と、背中を押せるようになりましたよ。

—ひかりさんも海外旅行がとても好きと伺いました！今まで行かれた旅の中で一番印象に残っている思い出を教えてください！

芸能のお仕事をやるようになってから、CMの撮影などでアメリカのマiamiに行ったり、ギリシャのミコノス島に行ったり、そういう時代だったので、本当に海外のいろんな所に連れてってもらいました。中学生の頃にフランスのパリに連れて行ってもらったとき、大人たちがブランド物に夢中になっているのを



見て「どうして大人はこんなに高い時計やブランド品を買うんだろう？」と、不思議に思った記憶もあります(笑)。プライベートでもいろいろな所に行きました。新婚旅行で行ったバリ島も楽しかったですし、香港は何を食べてもおおいかったなあ…。小学生の頃、父の仕事の都合で3年間、台湾で暮らしていたことがあったので、私にとって台湾は第二の故郷のような場所なんです。大人になって改めて台湾を旅したときには「旅をしている」というより「帰ってきた！」というような感覚になって「やっぱり台湾は大好きだな」と再確認しました。でも、一番思い出に残っているのは、娘たちが小学校低学年の頃に家族で行ったハワイ旅行ですね。ドラマプロデューサーの夫が3年がかりで取り組んだ大きな仕事を終えて「みんなみんなお疲れ様でした！」というタイミングで、家族みんなへのご褒美に1カ月ハワイに滞在したときは楽しかったなあ…。あの記憶を全部メモリーカードに保存して棺桶に入れてほしい(笑)。

—ひかりさんにとっての「旅の魅力」は、どんなものですか？

キレイな景色を見たり、おいしいものを食べたり、ショッピングを楽しんだり、旅の魅力は本当に人それぞれだと思うんですけど、私にとって旅の最大の魅力は「移動すること」なんです。飛行機でも、電車でも、車でも、景色が動いている中にあることで、テンションが上がってワクワクしますし、精神衛生上良いんですよね。船だけちょっと弱いんですけど(笑)、でも、いつか船旅もしてみたいなあと思っています。

—わかります！流れる景色をボーッと眺めるのって、なんとも言えない贅沢な時間感じます！

そうですね！これは私の性格だと思うんですけど、モノよりコトが好きなんです。あまり物欲や所有欲がないというか…モノを否定するわけではないんですけど、何かモノを買うより「体でしか覚えておくことができないコト」で人生を豊かにしていくほうが好き。私が子どもだった頃よりも旅は手軽で身近なものになりましたから、今は少し頑張れば世界中いろいろな所に行くことができますよね。「子どもたちをいろいろな所に連れて行ってあげたい。楽しい思い出を作ってあげたい」という思いは、私自身のモチベーションにもなっていたと思いますね。

—2023年からは外務省が運営する「たびレジ」のアンバサダーを務めていらっしゃいますよね！この「たびレジ」とは、どんなサービスですか？

「たびレジ」は、外務省が運営する旅行者向けの情報発信サービスです。旅の目的地と日程を登録しておくことで、現地で大きな事件や事故、自然災害などが起こったときに、現地の大使館や総領事館から出される日本語の緊急情報をメールやLINEで受け取ることができるんです。また、例えば「〇月×日に、この

周辺でデモが予定されているので、できるだけ近づかないようにしてくださいね」とか「△△広場の周辺でスリの被害報告が増えていますので、注意してください」といった、旅行者ではなかなか把握しきれない、現地の最新の安全情報を受け取ることもできて、旅先でのリスクを低くするのにとっても便利なんです！

—旅行先を選ぶときにも活用できそうですし、日本にいる家族の方も同じように登録しておく、もしもの時に役に立ちそうですね！

そういう使い方もいいですね！あと、とても大切なことなんですけど、もし現地で大きな事件や災害が起こってしまって、日本人に避難勧告が出されるような事態になってしまったとき、外務省の方はこの「たびレジ」に登録された情報をもとに、現地で日本人旅行者の安否確認を行うこともあるそうなんです。もちろん、何も起きないのが一番なんですけど、いつ、どこで、何が起こるかは誰にもわからないじゃないですか。せっかくの旅を少しでも安全に楽しむために、ぜひ海外に行く前に登録してから出発するようにしてほしいな、と思っています。

助けを必要とする人とつながる経験が物事の見方を変えてくれる

—ひかりさんはフードバンクや動物保護活動、被災地支援といった社会貢献活動に積極的に取り組んでいますよね。こうした活動を支える原動力はどんなところにあるのでしょうか？



©2025「RENOIR」製作委員会 / International Partners 配給:ハピネットファントム・スタジオ

私は、両親がクリスチャンという家庭で育った影響もあって、芸能の仕事をはじめた10代の頃から「少しでも寄付をしない」と言われてきたんです。当時は、まだそんなにお給料ももらっていない時期だったので「ええ〜？」なんて思ったこともありましたが、それでも本当に微々たる金額でも、定期的に寄付を続けてきました。

今になって思うのは、平和な国に生まれて、多くの人が本当に困った経験をしないうまま過ごしている一方で、助けを必要としている人は存在していて、普通に生活しているだけでは、それに気づけないことも多いということなんです。だからこそ、そういった方々に普段から思いを寄せることは、とても大切だなと感じています。寄付もそのひとつですが、社会に貢献する活動や、活動を支えてくださっている方々のことを、できるだけ多くの人に知っていただくのも、私にできることのひとつかなと思って、お手伝いをしています。

—Hostelling Magazineの読者は学生の方が多いのですが、学生の方でもできる貢献活動はあるのでしょうか？

いろんな形の関わり方があるんですよ！お金でなくエネルギーや時間を必要としている方もたくさんいらっしゃる。力仕事だったり、施設の掃除だったり、特別な知識や資格がなくてもできることはたくさんあるので、ぜひ参加してもらいたいですね。「他人への想像力が薄れてきている」と言われる時代に、助けを必要とする人に心を寄せて、自分から関わっていくという経験は、世界や物事の見方をガラッと変えてくれます。その後の人生に絶対に役立つので、ぜひ参加してみてください！

『ルノワール』

6月20日(金)より、新宿ピカデリー他全国ロードショー
第78回カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式出品作品
『PLAN 75』の早川千絵監督最新作！

1980年代のある夏。11歳のフキ(鈴木唯)は、両親と3人で郊外の家で暮らしている。ときには大人たちを戸惑わせるほどの豊かな感受性をもつ彼女は、得意の想像力を膨らませながら、自由気ままに過ごしていた。ときどき垣間見る大人の世界は、複雑な感情が絡み合い、どこか滑稽で刺激的。闘病中の父(リリー・フランキー)と、家事と仕事に追われる母(石田ひかり)との間にはいつしか大きな溝が生まれ、フキの日常も否応なしに揺らいでいく――。



抽選で石田ひかりさんサイン入り色紙を1名様
映画『ルノワール』オリジナルB2ポスターを2名様にプレゼント！

応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用申し込みフォームから！

<https://jyh.jp/hm>

応募〆切:2025年8月末日

※当選者にはご応募時にご登録いただいたメールアドレス宛にご連絡いたします。
©jyh.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。

